行事／取組名称	オンライン・プレチャレンジ 第 6 回		
担当者	並木雅俊		
開催日時・期間	2025 年 4 月 13 日 (日) 13:30～15:00	会場	オンライン
主催	JPhO	協力	
共催			
協賛			
概要			
<p>2024 年度第 6 回オンライン・プレチャレンジとして「第 1 チャレンジ理論問題の考え方」を実施した。今年から始まる募集要項の第 1 チャレンジ 2 コースの説明に始まり、第 1 チャレンジ理論問題の考え方を参加者とともに考え、その筋道を解説した。</p>			
傘下	JPhO 委員	参加生徒	適用
5 名: 並木, 渡辺, 原田, 小牧, 佐藤		11 名	

申し込み人数は 13 名、学年別では高 3 (1 名)、高 2 (5 名)、高 1 (3 名)、中 2 (3 名)、小 3 (1 名) であった (出席をとらなかったため、どの 2 名が欠席をしたのか不明であるが、小学校 3 年生が参加していたことは画面上で確認できた)。物理チャレンジ・オリンピックの紹介、第 1 チャレンジ参加数動向、分野別問題数、平均・偏差などを簡単に述べてから、問題解説を行った。問題は 2024 年の第 1 チャレンジ問題 (27 問) から分野が偏らないように 7 問を選んだ (問 1 (浮力)、問 4 (滑車と張力)、問 7 (大きさの違うシャボン玉の圧力)、問 9 (屈折率と全反射)、問 11 (簡単な回路)、問 23 (少し難しい回路)、問 15 (斜面を移動する時間): 解説順序)。できるだけ身近な現象を扱った問題を選んだが、身近な問題を選び難い電磁気分野は中学校でも扱われている回路の問題を選んだ。問題の解説および考え方は、解説者が一方的に説明したのでは参加者に印象も残り難いので、問題を読み上げた後、簡単に解説を加えてから参加者 (の一人) に答えてもらう方法をとった。解答者は、自ら手を上げて答えてくれる参加者がいなかったため、こちらで選んだがしっかりと答えてくれた (ほっとした)。参加者の理解の度合いが (対面講義に比べ) わかり難いため、1 問に充てる時間の配分に気を遣った (今回は 7 問としたが、もう 1 問くらいできたかもしれない)。

少なくとも、あてられて解答者となった参加者にとって有意義であったと思え、あてられなかった参加者も解答者と共に考えてくれたようであった。今回の講義で、参加者に物理チャレンジ・オリンピックの理解のきっかけとなったこと、問題から考えることの楽しみが伝わったことを願った。